Nipponham Group
人輝く、食の未来

決算説明資料

～2018年3月期　第1四半期～

説明会開催予定日
２017年８月3日（木）
日本ハム株式会社

目　次

Ⅰ．2018年3月期　第1四半期連結業績の総括

Ⅱ．2018年3月期の見通し

Ⅲ．2018年3月期　第1四半期財務データ

Ⅰ．2018年3月期　第1四半期連結業績の総括

1. オペレーティング・セグメント情報　第1四半期
2. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部
3. オペレーティング・セグメント情報　食肉事業本部
4. オペレーティング・セグメント情報　関連企業本部
5. オペレーティング・セグメント情報　海外事業本部
6. 海外　主要所在地別　外部顧客売上高実績

1. オペレーティング・セグメント情報　第1四半期

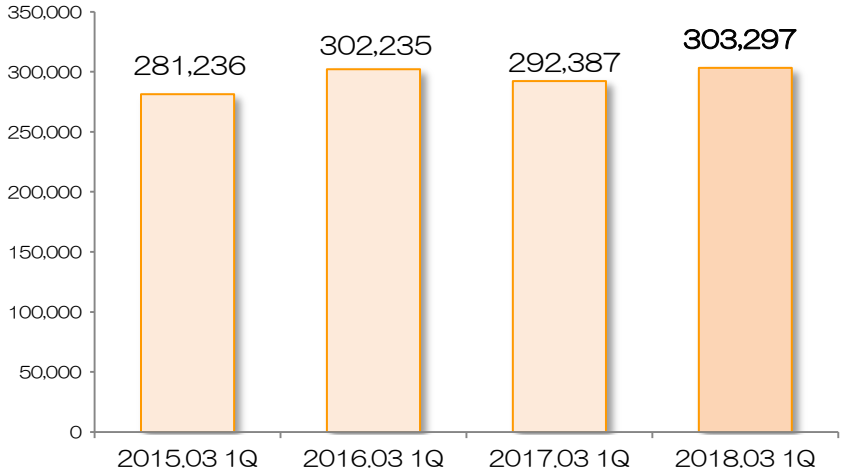
Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円）

		2015.03.1Q	2016.03.1Q	2017.03.1Q	2018.03.1Q	前年差	前年比（%）
加工事業本部	売上高	82,555	79,604	81,388	83,228	1,840	2.3
	営業利益	1,060	28	1,111	908	△ 203	△ 18.3
食肉事業本部	売上高	172,321	187,180	184,293	193,091	8,798	4.8
	営業利益	6,199	9,103	8,329	12,874	4,545	54.6
関連企業本部	売上高	35,441	36,909	37,709	38,283	574	1.5
	営業利益	△ 41	188	586	489	△ 97	△ 16.6
海外事業本部	売上高	57,592	64,932	55,281	55,832	551	1.0
	営業利益	1,842	3,148	△ 574	△ 515	59	-
消去調整他	売上高	△ 66,673	△ 66,390	△ 66,284	△ 67,137	△ 853	-
	営業利益	404	△ 85	227	160	△ 67	-
連結合計	売上高	281,236	302,235	292,387	303,297	10,910	3.7
	営業利益	9,464	12,382	9,679	13,916	4,237	43.8

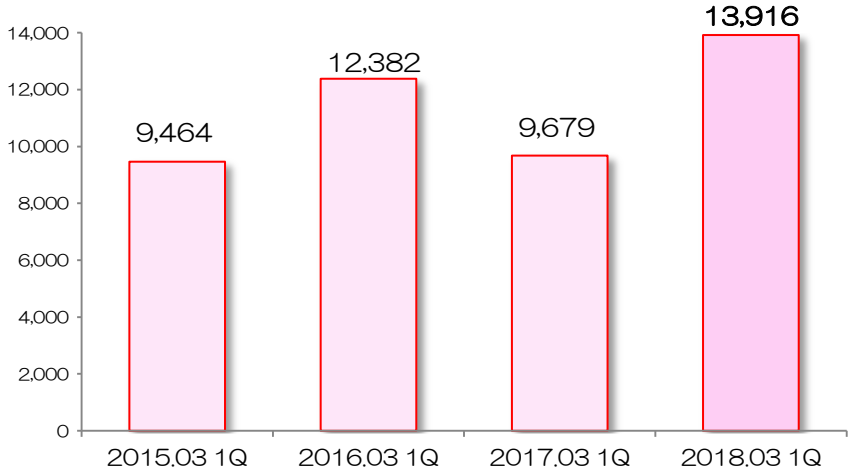
（単位：百万円）
（連結）

売上高



（単位：百万円）
（連結）

営業利益



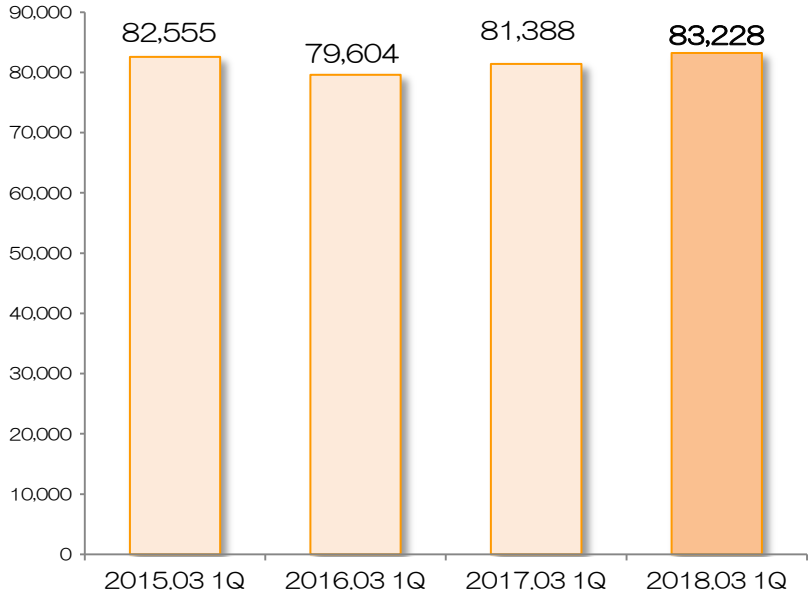
※オペレーティング・セグメント情報のセグメント別売上高と、当資料P.21の品種別の売上高の数値とは一致しません。
※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

2. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部①

Nipponham Group 人輝く、食の未来

売上高

（単位：百万円）

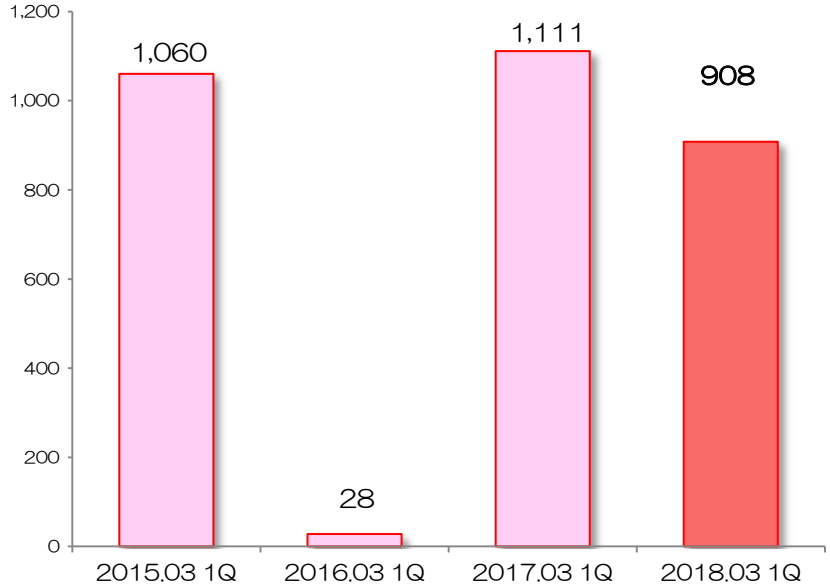


（単位：百万円）

	2017.03 1Q	2018.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	81,388	83,228	1,840	2.3

営業利益

（単位：百万円）



（単位：百万円）

	2017.03 1Q	2018.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	1,111	908	△ 203	△ 18.3
営業利益率	1.4%	1.1%	-	-

【第1四半期の売上状況】

ハム・ソーセージでは、コンシューマは、ＴＶＣＭを実施した「豊潤あらびきウインナー」等で上乗せを図ったが、ＰＢ商品の数量減少等により昨年並み。業務用は競争激化により苦戦した。
デリ商品では、コンシューマは、発売３０周年を迎えた「チキチキボーン」等の販促を強化したが、主力品が苦戦した事で前年割れとなった。業務用はＣＶＳ向け、外食向け商品が好調に推移し増収となった。

【第1四半期の営業利益状況】

販売部門におけるコスト改善等が寄与したが、製造部門における人件費の増加などによる製造経費増加により減益となった。

2. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部②

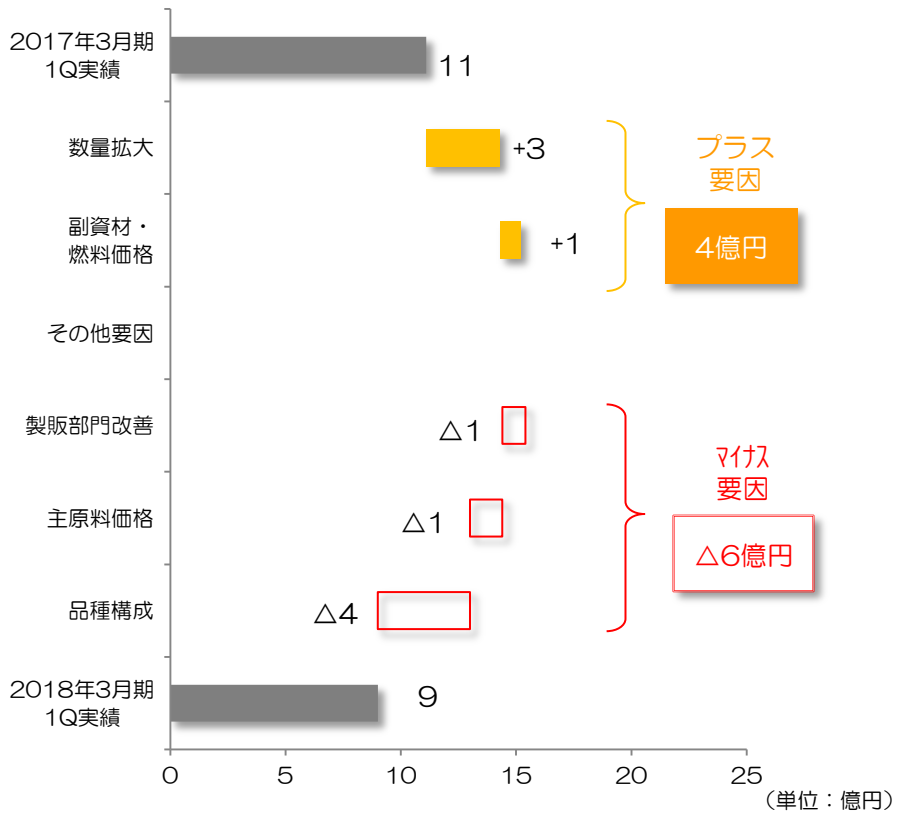
Nipponham Group 人輝く、食の未来

【営業利益増減要因分析】

	2018.03期		
	1Q 計画	1Q 実績	計画 差異
数量拡大	4億円	3億円	△ 1億円
利益率改善	2億円	△ 5億円	△ 7億円
外部要因	△ 2億円	△ 1億円	1億円
（内訳）主原料価格	△ 3億円	△ 1億円	1億円
（内訳）副資材・燃料等	1億円	1億円	0億円
内部要因	3億円	△ 5億円	△ 8億円
（内訳）品種構成（商品リニューアル）	△ 1億円	△ 4億円	△ 3億円
（内訳）製販部門改善	5億円	△ 1億円	△ 5億円
その他要因	0億円	0億円	0億円
合計	6億円	△ 2億円	△ 8億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【1Q営業利益実績の増減要因グラフ】



●計画差異要因分析（1Q）

【数量拡大】　・・・デリ商品の数量が苦戦し計画を下回った。

【品種構成】　・・・高単価商品が伸び悩み計画を下回った。

【製販部門改善】　・・・数量が計画より下回った事に加え、製造部門における人件費の増加により計画を下回った。

2. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部③

●主要ブランド売上実績

堅調に推移する
「豊潤®あらびきウインナー」

キャンペーン等で回復傾向にある
「中華名菜®」

【（参考）　主要ブランド商品売上高実績（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2018.03 1Q実績	デリ商品	2018.03 1Q実績
シャウエッセン	101%	石窯工房群	93%
森の薫りW＋豊潤W	149%	中華名菜群	94%
彩りキッチンシリーズ	72%	プリフライ群	102%
グルメイドステーキ	93%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ・ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	104%
焼豚群	101%	カレー群	105%
コンシューマ商品計	100%	コンシューマ商品計	97%

●チャネル別売上実績

①コンシューマ商品
・ハム・ソーセージは「シャウエッセン」の積極的な販促に加え、ＴＶＣＭを投入した。「豊潤あらびきウインナー」が好調に推移し数量は伸長したが金額ベースでは前年並みだった。
・デリ商品は、発売３０周年を迎えた「チキチキボーン」が好調に推移したが、主力の「中華名菜」「石窯工房」が苦戦し、数量、金額共に前年割れとなった。

②業務用商品
・ハム・ソーセージは、積極的なメニュー提案や販促企画への参画により数量は伸長したが、競争激化により金額ベースは昨年割れとなった。
・デリ商品は、ＣＶＳ向け、外食向けが好調に推移し数量、金額共に伸長した。

【（参考）2018年3月期1Q　チャネル別伸び率（対前年同期比）】

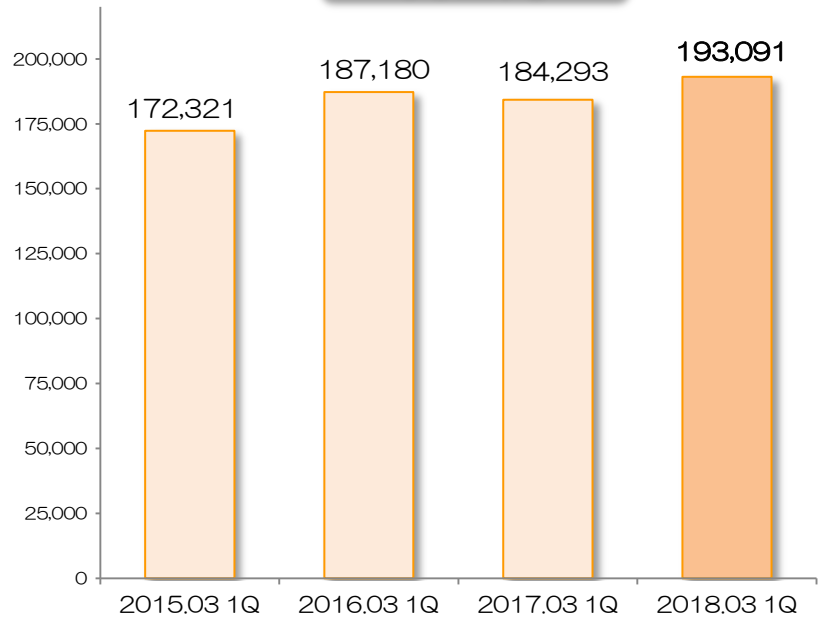
		数量	金額
ハム・ソーセージ	コンシューマ	104%	100%
	業務用	101%	96%
	合計	103%	100%
デリ商品	コンシューマ	99%	97%
	業務用	108%	110%
	合計	103%	103%

3. オペレーティング・セグメント情報　食肉事業本部①

Nipponham Group 人輝く、食の未来

売上高

（単位：百万円）



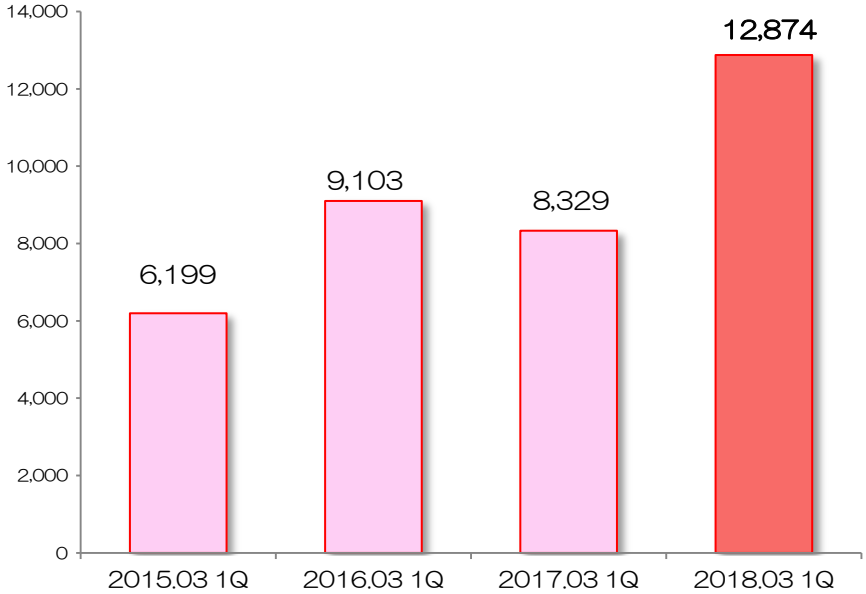
（単位：百万円）

	2017.03 1Q	2018.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	184,293	193,091	8,798	4.8

【第1四半期の売上状況】
国産・輸入ともに鶏肉の販売価格上昇と、輸入牛肉の販売数量伸長で増収となった。

営業利益

（単位：百万円）



（単位：百万円）

	2017.03 1Q	2018.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	8,329	12,874	4,545	54.6
営業利益率	4.5%	6.7%	-	-

【第1四半期の営業利益状況】
国産鶏肉の市況高と国産鶏肉「桜姫」の伸長により生産事業で増益、また販売面では、輸入鶏肉の市況高などにより増益となった。

3. オペレーティング・セグメント情報　食肉事業本部②

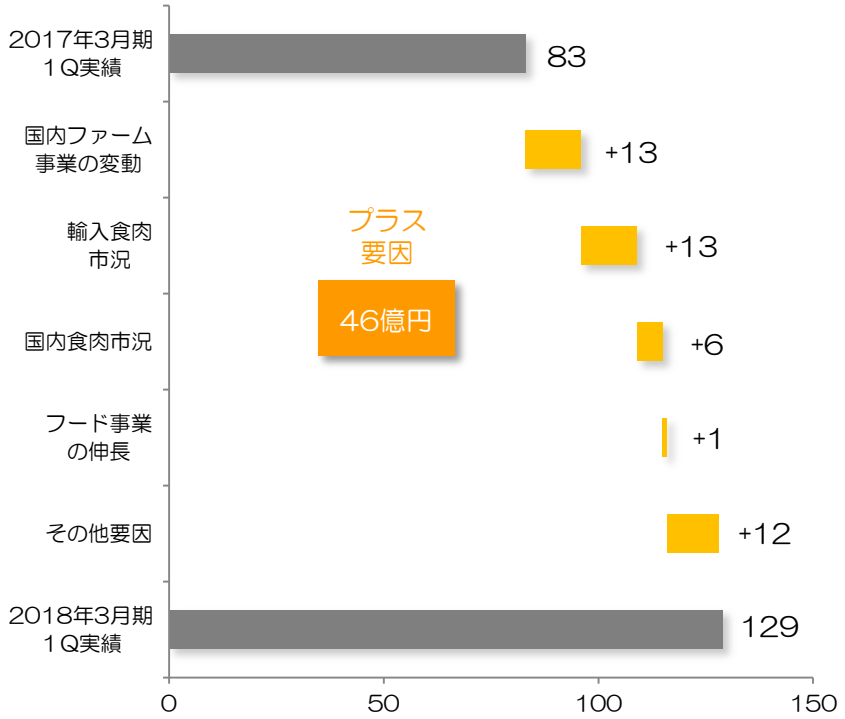
Nipponham Group 人輝く、食の未来

【営業利益増減要因分析】

	2018.03月期		
	1Q 計画	1Q 実績	計画 差異
輸入食肉市況	1億円	13億円	13億円
国内食肉市況	0億円	6億円	5億円
国内ファーム事業の変動	0億円	13億円	13億円
フード事業の伸長	△0億円	1億円	1億円
その他要因	8億円	12億円	4億円
合計	9億円	46億円	37億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【1Q営業利益実績の増減要因グラフ】



（単位：億円）

●計画差異要因分析（1Q）

【輸入食肉市況】　・・・輸入牛肉は昨年の反動で減益だったが、輸入鶏肉の市況高により増益。

【国内ファーム事業の変動】・・・鶏肉相場はムネ肉を中心に堅調、豚肉相場も高値で推移し増益。

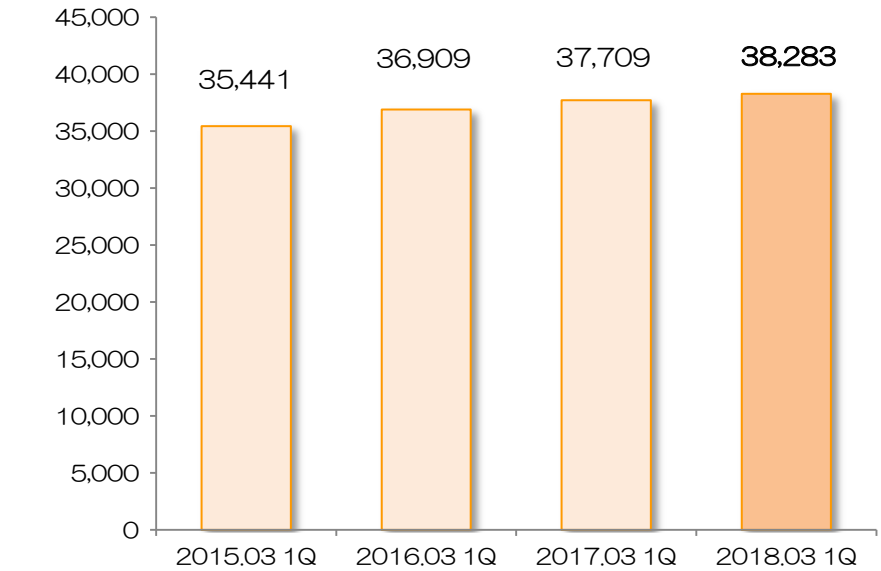
【フード事業の伸長】　・・・国産牛肉の利益拡大と外食チャネルの販売増により増益。

4. オペレーティング・セグメント情報　関連企業本部

Nipponham Group 人輝く、食の未来

売上高

（単位：百万円）



（単位：百万円）

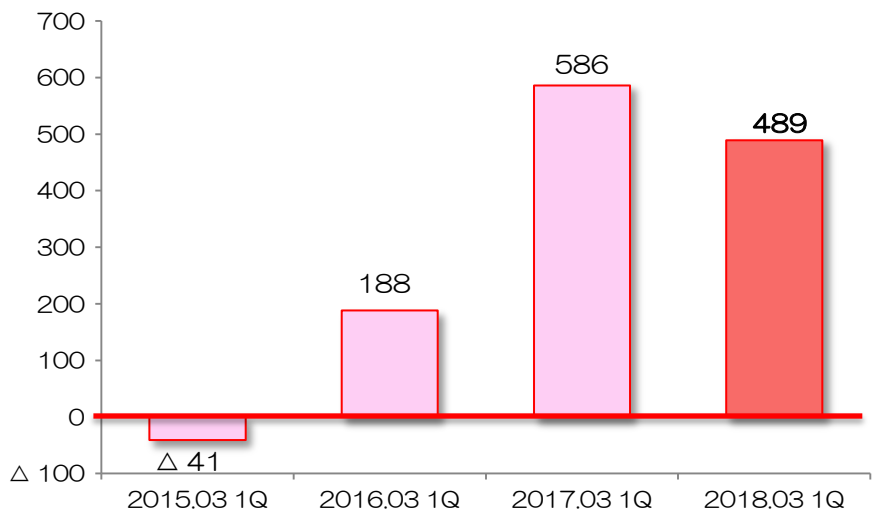
	2017.03 1Q	2018.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	37,709	38,283	574	1.5

【第1四半期の売上状況】
（水産事業）
価格改定や輸出拡大に努めたものの、自社製造商品の原料不足に加え、鮭やイカの漁獲量減少などの影響により、昨年並みとなった。

（乳製品事業）
ヨーグルトは乳酸菌飲料、チーズはコンシューマ・業務用共に伸長し増収となった。

営業利益

（単位：百万円）



（単位：百万円）

	2017.03 1Q	2018.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	586	489	△ 97	△ 16.6
営業利益率	1.6%	1.3%	-	-

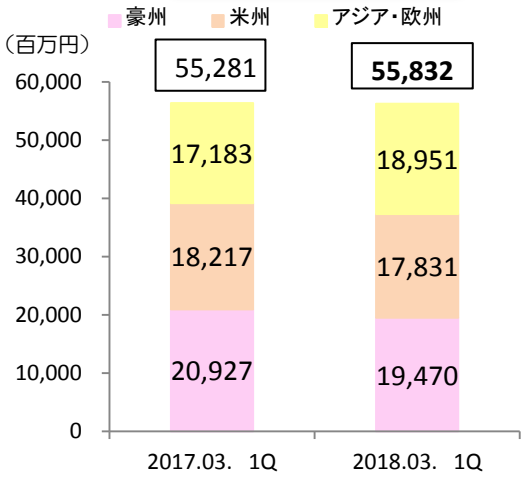
【第1四半期の営業利益状況】
（水産事業）
漁獲減により原材料の確保が進まず、自社製造商品が落ち込み減益となった。

（乳製品事業）
乳酸菌飲料の売上が伸長したことと、チーズの売上伸長で工場稼働率が改善したことで増益。

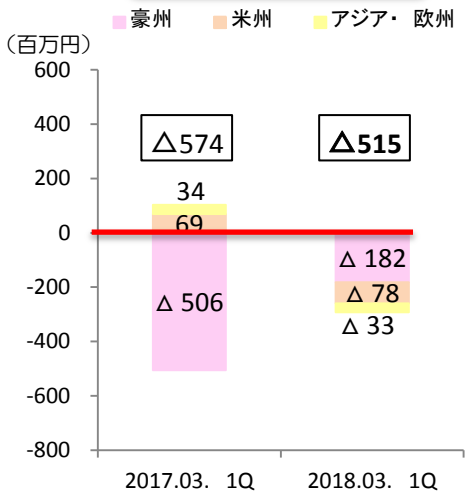
5. オペレーティング・セグメント情報　海外事業本部①

Nipponham Group 人輝く、食の未来

売上高



営業利益



【第1四半期の売上高状況】
米国からの輸出の鈍化や豪州の処理頭数の回復の遅れ等あったが、トルコ エゲタブ社の売上高は大幅に伸長し増収。

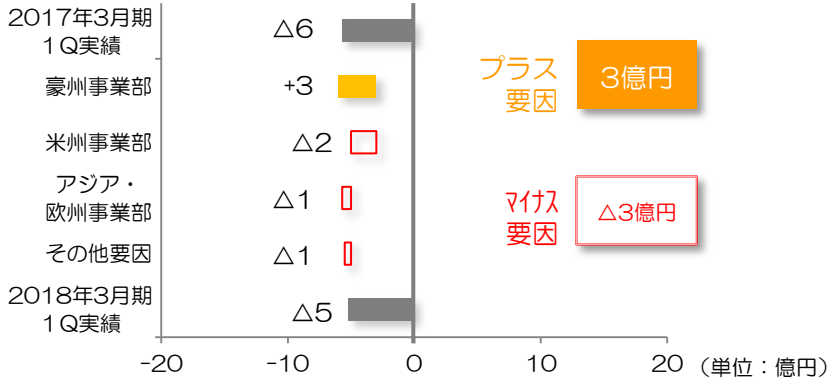
【第1四半期の営業利益状況】
米州事業の輸出環境の悪化したが、トルコ エゲタブ社が順調に推移し、豪州事業が回復基調に入ったことで改善した。

※売上金額,営業利益は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。
（セグメント間取引の消去があるため、海外計は各地域の合計とは一致しません）

【営業利益増減要因分析】

	2018.03月期		
	1Q 計画	1Q 実績	計画 差異
豪州事業部	△ 1億円	3億円	5億円
米州事業部	△ 3億円	△ 2億円	1億円
アジア・欧州事業部	2億円	△ 1億円	△ 2億円
その他要因	△ 1億円	△ 1億円	0億円
合計	△ 3億円	1億円	4億円

【1Q営業利益実績の増減要因グラフ】



※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

●計画差異要因（1Q）

【豪州事業】・・・生体仕入れ価格の下落が進み、計画を上回った。

【米州事業】・・・日本向け食肉輸出の為替・仕入環境が悪化したが、計画を上回った。

【アジア・欧州事業】・・・トルコ エゲタブ社の改善があったが、欧州からの食肉輸出環境悪化で計画を下回った。

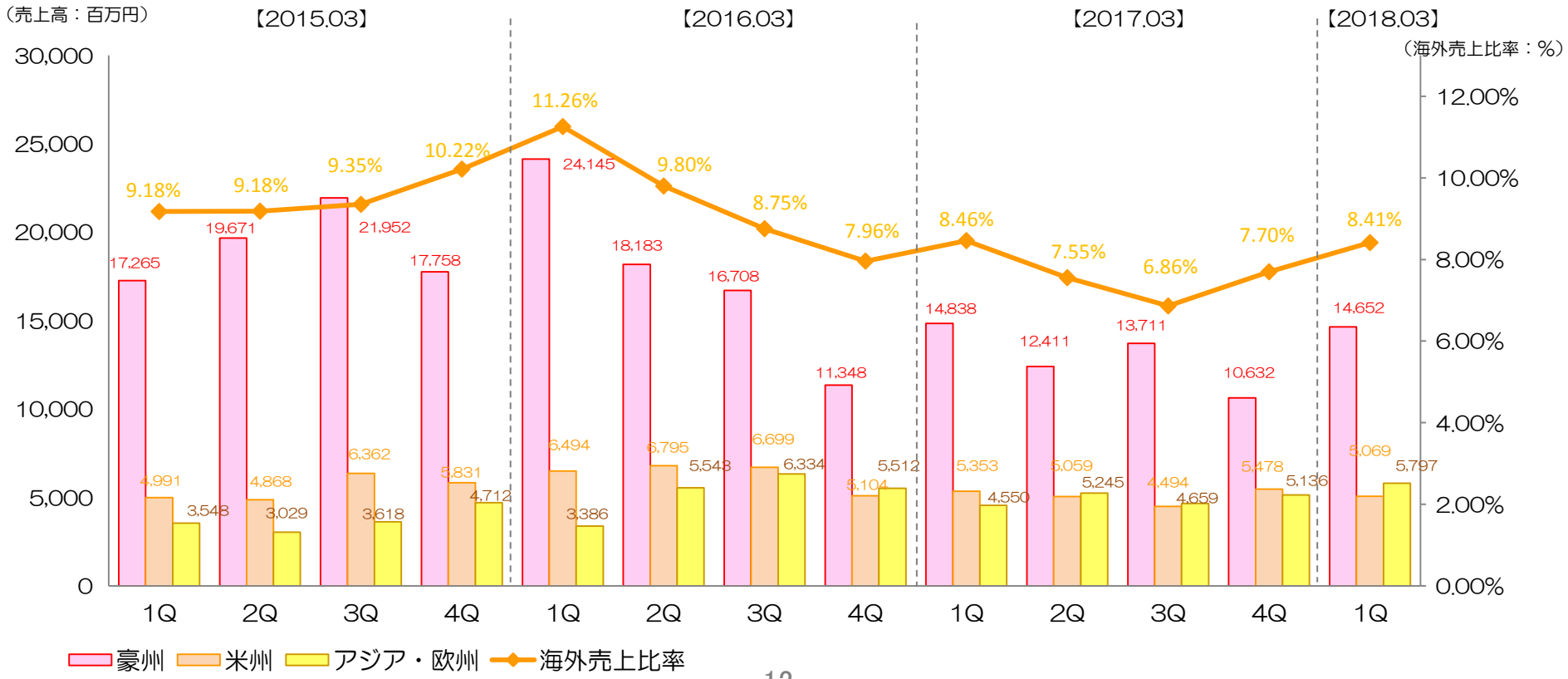
6. 海外　主要所在地別 外部顧客売上高実績

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円）

	2015.03	2016.03	2017.03					2018.03
	通期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
豪州	76,646	70,384	14,838	12,411	13,711	10,632	51,592	14,652
米州	22,052	25,092	5,353	5,059	4,494	5,478	20,384	5,069
アジア・欧州	14,907	20,775	4,550	5,245	4,659	5,136	19,590	5,797
海外計	113,605	116,250	24,742	22,713	22,866	21,245	91,566	25,518
海外売上比率	9.47%	9.46%	8.46%	7.55%	6.86%	7.70%	7.62%	8.41%

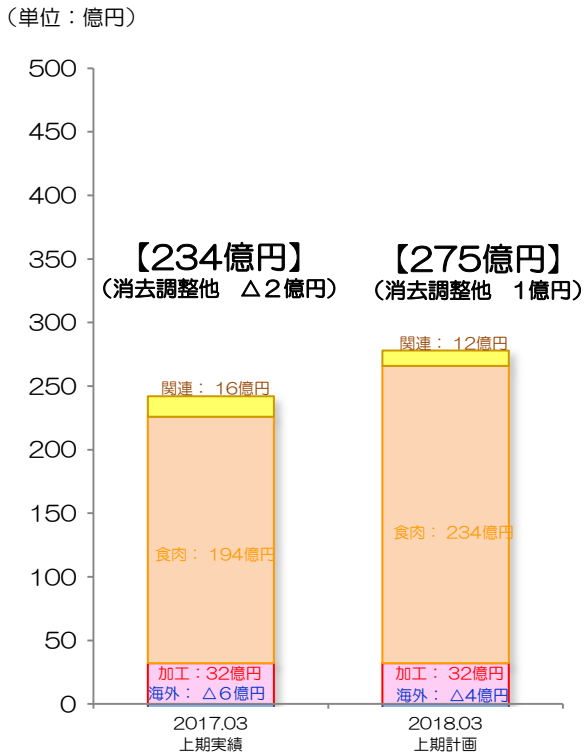
※売上金額は、外部顧客に対する売上高です。

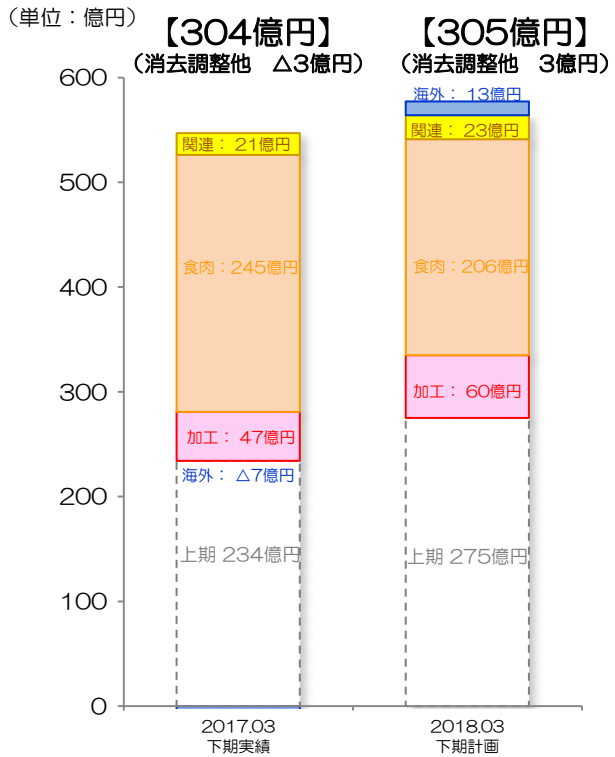


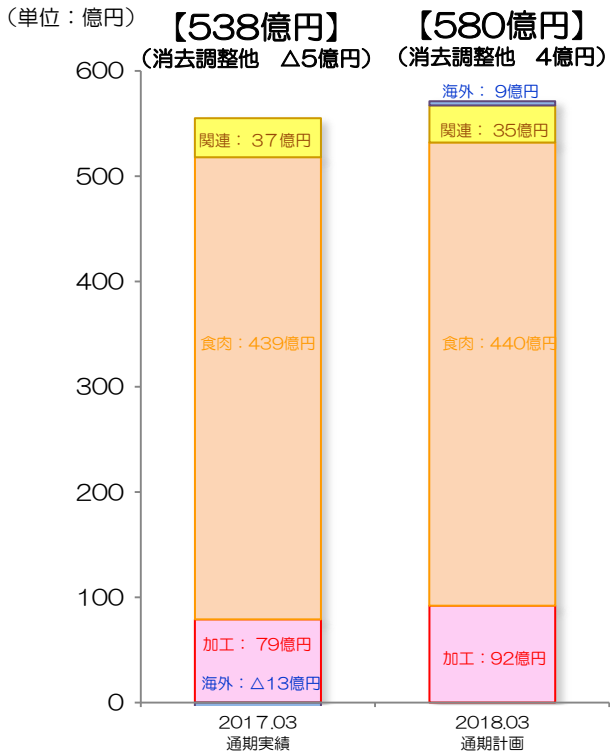
Ⅱ．2018年3月期の見通し

1. 2018年3月期　営業利益計画
2. 2018年3月期計画（加工事業本部）
3. 2018年3月期計画（食肉事業本部）
4. 2018年3月期計画（関連企業本部）
5. 2018年3月期計画（海外事業本部）

1. 2018年3月期　営業利益計画①







	2018.03 上期			2018.03 下期			2018.03 通期		
	2017.03 上期実績	見込み	増減	2017.03 下期実績	見込み	増減	2017.03 通期実績	見込み	増減
加工事業本部	32億円	**32億円**	△0億円	47億円	**60億円**	13億円	79億円	**92億円**	13億円
食肉事業本部	194億円	**234億円**	40億円	245億円	**206億円**	△39億円	439億円	**440億円**	1億円
関連企業本部	16億円	**12億円**	△4億円	21億円	**23億円**	2億円	37億円	**35億円**	△2億円
海外事業本部	△6億円	**△4億円**	2億円	△7億円	**13億円**	20億円	△13億円	**9億円**	22億円
消去調整他	△2億円	**1億円**	3億円	△3億円	**3億円**	6億円	△5億円	**4億円**	9億円
合計	234億円	**275億円**	41億円	304億円	**305億円**	1億円	538億円	**580億円**	42億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

1．2018年3月期　営業利益計画②

Nipponham Group 人輝く、食の未来

【期初計画との差異】

※第２四半期、上期及び通期計画については、第1四半期時に見直した計画となっています。

	2018.03.2Q			2018.03 上期			2018.03 通期		
	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異
加工事業本部	28億円	**23億円**	△5億円	45億円	**32億円**	△13億円	105億円	**92億円**	△13億円
食肉事業本部	102億円	**105億円**	3億円	194億円	**234億円**	40億円	400億円	**440億円**	40億円
関連企業本部	11億円	**7億円**	△4億円	17億円	**12億円**	△5億円	40億円	**35億円**	△5億円
海外事業本部	6億円	**1億円**	△5億円	△3億円	**△4億円**	△1億円	10億円	**9億円**	△1億円
消去調整他	0億円	**△1億円**	△1億円	2億円	**1億円**	△1億円	5億円	**4億円**	△1億円
合計	147億円	**136億円**	△11億円	255億円	**275億円**	20億円	560億円	**580億円**	20億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

加工事業本部	期初計画との差異								
	2Q			上期			通期		
	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異
数量拡大	**3億円**	**2億円**	**△1億円**	**7億円**	**5億円**	**△2億円**	**11億円**	**9億円**	**△2億円**
利益率改善	**4億円**	**0億円**	**△4億円**	**6億円**	**△5億円**	**△11億円**	**15億円**	**4億円**	**△11億円**
外部要因	△5億円	△4億円	1億円	△6億円	△4億円	2億円	△27億円	△25億円	2億円
（内訳）主原料価格	△4億円	△3億円	1億円	△6億円	△4億円	2億円	△23億円	△21億円	2億円
（内訳）副資材・燃料等	△1億円	△1億円	0億円	△0億円	0億円	0億円	△4億円	△4億円	0億円
内部要因	8億円	4億円	△4億円	12億円	△1億円	△13億円	42億円	29億円	△13億円
（内訳）品種構成（商品リニューアル）	3億円	△1億円	△4億円	2億円	△5億円	△7億円	15億円	8億円	△7億円
（内訳）製販部門改善	6億円	5億円	△1億円	10億円	5億円	△5億円	27億円	21億円	△6億円
その他	**0億円**	**0億円**	**0億円**	**0億円**	**0億円**	**0億円**	**0億円**	**0億円**	**0億円**
合計	**7億円**	**2億円**	**△5億円**	**13億円**	**0億円**	**△13億円**	**26億円**	**13億円**	**△13億円**

食肉事業本部	期初計画との差異								
	2Q			上期			通期		
	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異
輸入食肉市況	△1億円	△4億円	△4億円	0億円	10億円	10億円	△0億円	9億円	10億円
国内食肉市況	0億円	1億円	1億円	1億円	6億円	6億円	△5億円	1億円	6億円
国内ファーム事業の変動	0億円	6億円	6億円	1億円	20億円	19億円	△20億円	△1億円	19億円
フード事業の伸長	0億円	0億円	△0億円	0億円	1億円	1億円	0億円	1億円	1億円
その他要因	△9億円	△9億円	△0億円	△2億円	3億円	5億円	△14億円	△10億円	4億円
合計	△9億円	△6億円	3億円	△0億円	40億円	40億円	△39億円	1億円	40億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

2. 2018年3月期計画（加工事業本部）

Nipponham Group 人輝く、食の未来

●ギフト売上拡大施策

・ 中元、歳暮合わせて昨年比106%伸長計画。
・ 『美ノ国』に関しては昨年比108 %伸長計画。（※構成比は25%）
・ 自社ブランド食肉を活用した商品と自家需要に対応した商品の強化。

（単位：千個）

		2017.03 実績		2018.03 計画	
		個数	前年比	個数	前年比
中元	全社販売個数	1,997	97%	2,116	106%
	(うち美ノ国)	514	101%	555	108%
歳暮	全社販売個数	4,189	108%	4,442	106%
	(うち美ノ国)	998	115%	1,078	108%
合計	全社販売個数	6,186	104%	6,558	106%
	(うち美ノ国)	1,512	110%	1,633	108%
	(構成比)	24%	-	25%	-

●主要ブランド売上拡大施策

①ハム・ソーセージは「シャウエッセン」と「豊潤あらびきウインナー」の継続したプロモーション、「彩りキッチンシリーズ」等の販売強化とブラッシュアップを行う。

②デリ商品は、「中華名菜」「石窯工房」の重点カテゴリーへのキャンペーンやアイテム拡充を行い、売りの拡大を図る。

【（参考） 主要ブランド商品売上高計画（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2018.03通期計画	デリ商品	2018.03通期計画
シャウエッセン	103%	石窯工房群	100%
森の薫りW+豊潤W	167%	中華名菜群	100%
ロースハム群	98%	プリフライ群	104%
ベーコン群	101%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ･ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	104%
焼豚群	103%	カレー群	106%

●チャネル別売上拡大施策

①コンシューマ
・グループ連携による商品開発の強化でブランド戦略を推進する。
・ディナー、健康コーナー等新しい切り口の売り場提案により面の拡大を図る。
・「豊潤あらびきウインナー」の集中取組みによる販売数量増。

②業務用
・チャネル別提案営業に特化した組織で売上拡大を図る。
・ＣＶＳチャネルは得意先変化に合わせたエリア販売の強化と定番商品の磨きによる売上拡大。
・外食チャネルは新規企業の開拓及び大型定番商品の新規導入。

【（参考）チャネル別 売上高計画（対前年同期比）】

2018.03 通期計画		金額
ハム・ソーセージ	コンシューマ	102%
	業務用	102%
	合計	102%
デリ商品	コンシューマ	100%
	業務用	105%
	合計	102%

3. 2018年3月期計画（食肉事業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●国内生産事業

・飼料原料は全世界的には豊作が予想されている一方、米国では高温乾燥の影響が懸念されており、加えて円安傾向ということもあり不透明。

・鶏肉の全国生産量は下期にかけて安定する一方、堅調な需要に支えられ市況は強含みでの推移を見込む。当社では引き続き、生産能力の拡大と生産性向上で需要増に対応する生産量拡大を図る。

・豚は全国的に疾病の影響が散見され、生産頭数の見通しは若干不透明。当社では疾病対策の更なる強化や安定した供給体制の確立に努めると共に、ブランド食肉への取組みも一層強化する。

●国内食肉市況

・牛肉価格は若干の落ち着きを見せているが、数量増は見込めず年末の需要期にかけて上昇傾向に。

・豚肉価格は、枝肉価格が高値で推移しているが、国内生産状況や輸入冷蔵豚肉の状況から下期にかけては不透明。

・鶏肉は、ムネ肉を中心に堅調な需要に支えられ、1年を通して高値で推移すると見る。

●輸入食肉市況

・牛肉は、冷凍品でセーフガードが発動された。今後の市況上昇要因になると予想される。

・豚肉はＥＵ・北米共に日本向け価格に上昇の気配があり、今後の展開に注視が必要。

・鶏肉は国内在庫は落ち着いているが、現地価格の先高感から市況は上昇の可能性あり。

●食肉販売（フード会社）

・麦小町ＴＶＣＭ、キャンペーンと連動して販促を行うなど、ブランド食肉の積極的な販売を行う。

・外食チャネルでの新規開拓、得意先ニーズに応じた提案販売の強化など、チャネル別に取組みを進め、販売数量の拡大に繋げる。

4. 2018年3月期計画（関連企業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●水産事業の売上拡大施策

（マリンフーズ）

・原材料の確保に努めると共に、商品開発を加速させ自社工場である三重工場の稼働を高める。
・釧路丸水㈱を活用した北海道フェアの実施強化によるタコ製品等の主力商品の拡販と、
北海道産原料にこだわった高付加価値商品の開発を行う。
・仕入ソースの拡充、グループ連携により原料・商品の調達力を強化する。

（宝幸）

・ＤＨＡ等が豊富に含まれ、健康面でも注目を集める鯖缶の拡販を進め、
八戸工場の稼働を安定させる。

マリンフーズ
自社工場で製造する
「カナダホッキ貝入りサラダ」

●乳製品事業の売上拡大施策

（チーズ）

・好調に推移するベビーチーズ、スモークチーズを中心にコンシューマ商品の生産性向上を図ると共に売上拡大に努める。

（ヨーグルト）

・収支のバランスを注視しつつ、バニラヨーグルトを始めとした主力商品の拡販を図る。
・好調に推移する乳酸菌飲料の商品プロモーションを強化し、拡販を図る。

好調に推移する
スムージーシリーズ
「グリーンスムージー」

●主原料・副資材価格動向

・水産品は、漁獲減と世界的需要増から主要な魚種で価格高騰が継続している。
・チーズ原料は、欧州・オセアニア共に減産していることや、円安もあり、高値継続を見込む。
・ヨーグルト原料（脱脂粉乳）は、国内生乳不足で引き続き高止まりを見込む。

5. 2018年3月期計画（海外事業本部）

Nipponham Group 人輝く、食の未来

●豪州事業部

・相場に左右されにくいブランド牛の比率を高め、収益を安定させる。
・各国の為替相場・市況を見極め、販売先の最適化を図る。
・牛仕入価格は想定より時間がかかったが下落トレンドに入っており、
今後もこの傾向は続くものとみる

【（参考）2018.03　１Ｑ豪州事業販売実績】

主な販売先国	数量構成比	数量（昨年比）
日本	28%	90%
米国	14%	65%
韓国	10%	63%
中国	6%	79%
台湾	4%	79%
豪州国内	25%	148%
その他	13%	71%
合計	100%	86%

●米州事業部

・アメリカでの米国内の食肉市況は堅調に推移しており、
為替等輸出環境は厳しい。
・米国内での食肉・水産の卸売業は拠点増により売上が拡大している。
・加工食品の販売は安定しており、積極的なマーケティングを実施し拡販に努める。

●アジア・欧州事業部

・トルコ　エゲタブ社はトルコ国内市況が需要増により堅調に
推移しており、通期黒字化を見込む。

【2018年3月期　海外事業本部　営業利益増減要因と営業利益額計画】

	営業利益増減要因					
	2Q			上期		
	期初計画		差異	期初計画		差異
豪州事業部	7億円	**7億円**	0億円	6億円	**10億円**	5億円
米州事業部	1億円	**△6億円**	△6億円	△2億円	**△7億円**	△5億円
アジア・欧州事業部	△0億円	**0億円**	0億円	1億円	**△1億円**	△2億円
その他要因	△1億円	**0億円**	1億円	△2億円	**△1億円**	1億円
	6億円	**1億円**	△5億円	3億円	**2億円**	△1億円

	営業利益額					
	2Q		上期		通期	
	期初計画	見込	期初計画	見込	期初計画	見込
豪州事業部	2億円	**3億円**	△4億円	**1億円**	4億円	**9億円**
米州事業部	4億円	**△3億円**	2億円	**△4億円**	11億円	**6億円**
アジア・欧州事業部	3億円	**4億円**	5億円	**4億円**	8億円	**7億円**
その他要因	△3億円	**△2億円**	△6億円	**△4億円**	△14億円	**△12億円**
	6億円	**1億円**	△3億円	**△4億円**	10億円	**9億円**

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。
ウルグアイ ＢＰＵ社の業績は、2Q計画より豪州事業部に含まれております。

Ⅲ．2018年3月期　第1四半期財務データ

1．2018年3月期連結業績概要及び通期計画

2．販管費、その他の営業費用、その他の収益

3．連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

1. 2018年3月期連結業績概要及び通期計画

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	2017年3月期実績			2018年3月期実績及び計画						
	1Q 実績	上期 実績	通期 実績	1Q 実績	前年比	数量 伸長率	上期 計画	前年比	通期 計画	前年比
売上高	292,387	593,092	1,202,293	303,297	3.7	-	620,000	4.5	1,260,000	4.8
ハム・ソーセージ	32,591	68,301	141,362	32,513	△ 0.2	2.5	69,300	1.5	144,500	2.2
加工食品	54,994	113,331	228,904	56,465	2.7	3.5	116,600	2.9	236,800	3.4
食肉	168,172	335,458	673,871	175,526	4.4	1.5	359,300	7.1	718,900	6.7
牛肉	68,727	136,202	267,219	68,591	△ 0.2	△ 3.4	147,700	8.4	300,100	12.3
豚肉	55,050	109,436	221,598	56,356	2.4	1.8	111,300	1.7	221,500	△ 0.0
鶏肉	38,417	77,297	159,128	44,051	14.7	3.7	87,400	13.1	170,000	6.8
その他食肉	5,978	12,523	25,926	6,528	9.2	9.3	12,900	3.0	27,300	5.3
水産	20,619	43,527	91,637	21,221	2.9	△ 0.7	46,800	7.5	100,600	9.8
乳製品	8,194	16,473	33,380	9,002	9.9	11.8	18,000	9.3	34,900	4.6
その他	7,817	16,002	33,139	8,570	9.6	-	10,000	△ 37.5	24,300	△ 26.7
売上原価	238,770	481,159	968,995	243,898	2.1					
売上総利益	53,617	111,933	233,298	59,399	10.8					
売上総利益率	18.3%	18.9%	19.4%	19.6%	-					
販売費及び一般管理費	43,938	88,501	179,496	45,483	3.5					
営業利益	9,679	23,432	53,802	13,916	43.8		27,500	17.4	58,000	7.8
税引前利益	8,661	21,870	49,112	13,241	52.9		24,500	12.0	53,000	7.9
法人税等	2,521	7,231	14,530	3,990	58.3		6,000	△ 17.0	14,700	1.2
税率		33.1%	29.6%		-		24.5%	-	27.7%	-
非継続事業の損益	△ 250	△ 12	△ 12	-	-		-	-	-	-
当社株主帰属当期純利益	5,919	14,749	35,004	9,368	58.3		18,500	25.4	38,500	10.0

＊米国会計基準を組替えて表示しております。

＊前年比、数量伸長率は、対前年増減率で表示しております。

2. 販管費、その他の営業費用、その他の収益

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	≪販管費≫	2017年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 対前年増減率	2018年3月期 対前年増減額
★①	販売費および一般管理費	43,938	45,483	3.5	1,545
	人件費	17,584	17,722	0.8	138
	広告宣伝費	2,852	2,674	△ 6.2	△ 178
★②	物流費	12,839	13,631	6.2	792
	その他	10,663	11,456	7.4	793

主な増減要因

★① 販管費　全体で15億円増加したが売上高も伸長したため、売上高販管費率は15.0%と前年と同水準になっている。

★② 物流費　運賃等の増加により約8億円増。

（単位：百万円）

		2017年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 対前年増減額	2017年3月期 通期実績
★①	その他の営業費用及び（△収益）-純額	790	215	△ 575	5,320
	固定資産関連	703	215	△ 488	2,427
	特別退職金	87	-	△87	2,895
	その他	-	-	-	△ 2
	その他の収益及び（△費用）-純額	106	△ 156	△ 262	1,770
	受取利息・配当金	368	453	85	1,162
	為替差損益	△ 194	△ 487	△ 293	106
	その他	△ 68	△ 122	△ 54	502
	支払利息	334	304	△ 30	1,140

主な増減要因

★①その他の営業費用及び（△収益）-純額　固定資産関連の減少等により約5億円減少。

3. 連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	≪連結貸借対照表≫	2017年3月期 期末実績	2018年3月期 第1四半期実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
★①	資産合計	720,276	741,079	2.9	20,803
	現金及び現金同等物	82,639	69,098	△ 16.4	△ 13,541
	売上債権	128,579	133,313	3.7	4,734
★②	棚卸資産	132,697	149,608	12.7	16,911
	有形固定資産	283,364	290,854	2.6	7,490
	投資及びその他の資産	45,172	47,107	4.3	1,935
	長期繰延税金資産	7,627	15,506	103.3	7,879
	負債合計	311,920	332,177	6.5	20,257
★③	支払手形及び買掛金	101,857	112,831	10.8	10,974
★④	有利子負債	138,284	144,850	4.7	6,566
	退職金及び年金債務	13,268	13,550	2.1	282
	当社株主資本	404,126	404,120	△ 0.0	△ 6
	非支配持分	4,230	4,782	13.0	552

主な増減要因

★①	資産合計	棚卸資産の増加等で約208億円増加。
★②	棚卸資産	食肉相場の上昇等により約170億円増加。
★③	支払手形及び買掛金	仕入増により約110億円増加。
★④	有利子負債	短期借入金等の増加により約66億円増加。

（単位：百万円、%）

≪設備投資額、減価償却費≫	2017年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 対前年増減率	2018年3月期 対前年増減額	2018年3月期 通期計画
設備投資額	5,686	5,289	△ 7.0	△ 397	66,400
生産設備	2,632	2,476	△ 5.9	△ 156	24,500
販売・物流設備	792	720	△ 9.1	△ 72	8,500
ﾌｧｰﾑ・処理設備	696	1,241	78.3	545	12,400
海外事業設備	794	600	△ 24.4	△ 194	17,000
その他設備	772	252	△ 67.4	△ 520	4,000
減価償却費	4,914	5,067	3.1	153	20,500

お問合せ先
〒141-6014　東京都品川区大崎2－1－1
ＴｈｉｎｋＰａｒｋ　Ｔｏｗｅｒ　14階
日本ハム株式会社　広報ＩＲ部
電話：03-4555-8024
FAX：03-4555-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。
これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。
また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。
従って、これら業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。
また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。